

令和5年度学校教育教員養成課程

(前期日程)

小論文(共通)

表紙

[解答上の注意]

1. 試験開始後、表紙1枚、問題用紙1枚、解答用紙1枚、下書き用紙1枚があるか、確認しなさい。
もし、欠落のある場合には挙手して、そのむねを申し出なさい。
2. 解答用紙の受験番号欄に、受験番号を忘れずに記入しなさい。
3. 解答は、指定された解答用紙に、指定された文字数で、横書きで記入しなさい。
句読点も1字に数えます。
4. 解答用紙の太線  部分には、何も記入しないようにしなさい。
5. 試験終了後、解答用紙を回収します。(全1枚)
表紙を含め、問題用紙、下書き用紙は各自持ち帰りなさい。(全3枚)

令和5年度学校教育教員養成課程

(前期日程)

小論文 (共通)

問題用紙 全1枚

問題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

せっかちなマスメディアはすぐこう質問する。「川の学校に入ると、子供の何が変わりますか?」, 「川の教育的価値について教えてください」等々……。

この国の人間は幼稚な教育癖がある。困った人たちだ。教育にいいといわないと納得しない。それでこんなきれいごとを無理にひねり出していった。

「子供を広い場所で自由に遊ばせると、自分の判断で遊ぶようになる。あなたたち大人があれこれ口を挟まなければ、子供はすぐに一人で遊べるようになります。ぼくの犬を見てください。犬ですら放っておけば自分で判断して遊ぶようになります。今、学校では、こうしろ、ああしろと指図ばかりして、子供たちは命令されないと動けなくなっています。今の日本では、子供を管理することに熱心で、自由に遊ぶのはいけないことになっている。これはおかしい。こんな広い海や川原があって、そこで自由に走り回ることが大切です。変な遊びは教えなくていい。それが一番楽しいじゃないですか」

遠くでぼくの犬が子供たちのカヌーに飛び乗って遊んでいる。

ぼくはマイクを握ったりポーターの顔を見ながら、この人がこれまで一度も川で遊んだことがないことに気がついた。

「川で遊ぶのは面白いじゃないか。それ以上、何を求めるんだ? 君、川に入って子供と遊んでごらん」

すると、彼らは訊くのである。

「何をして遊ぶんですか」

「水に入るだけでも面白いよ」

この人たちは遊園地のように遊びを差し出されないと遊べないのだ。川で何をしたら面白いか見当がつかない。

テレビや新聞の連中が子供に訊いている。

「川に入って何が面白いの?」

(野田知佑『川の学校』, 三五館, 2012年, より抜粋。原文は縦書き。ルビは原文のまま。)

問 筆者は、川で遊ぶことにはどのような良さがあると考えていますか。また、あなたは教育効果を追い求めることの良し悪しをどのように考えますか。以上2点について、あなたの考えを800字以内で述べなさい。